

【人工耳(Artificial Ear)の使用方法】

主な使用目的: 気道ヘッドホン等の音響特性測定

使用するもの (以下は, OctaCaputure と MATLAB を使って測定する場合の例)

Artificial Ear 本体一式



マイクロホン: B&K Type 4192



マイクプリアンプ: B&K Type 2669



マイク電源: 4-channel Microphone Power Supply Type 2829



アンプーマイク電源接続用ケーブル:



OCTA-CAPTURE :



BNC ケーブル, BNC-RCA 変換プラグ,
RCA-ホーン変換プラグ



人工耳の使い方

必ず以下の手順に従うこと。

1. 本体にマイクロホン（B&K Type 4192）が付いていることを確認する。
付いていない場合は、備考欄のマイクロホンの接続を行う。



図1

2. B&K Type 2669 プリアンプを、ネジ部分にまわし込み取り付ける（図2）

強く締め過ぎないように注意！



図2

3. プリアンプとマイク電源を専用のケーブルで接続する（図3）
細い方がプリアンプ側、太い方が電源側。
プリアンプ／電源とケーブルの「赤い印」の位置を合わせること。
無理やり差し込むと、ピンが折れて使用できなくなるので注意！



図3

4. マイク電源と OctaCapture を BNC ケーブルで接続する。
OctaCapture 側は BNC→RCA→ホーンプラグに変換して接続する（図4）



図4

5. ヘッドホンを置いて（挟んで）音を再生し測定。（図 5）

必要に応じてヘッドホン受けのプレートに黒いキャップのあった部分にはめる（図 6）

音や振動を発生する機械(コンピュータなど)の電源を切っておくか、本体と十分な距離を取るなど、測定に影響のないように注意すること！

ヘッドホンの上から適度な圧力をかけると音漏れ防止効果があるので良いかも。

イヤホンの測定の場合には、ダミーヘッドの耳を使う？（図 7）



図 5



図 6

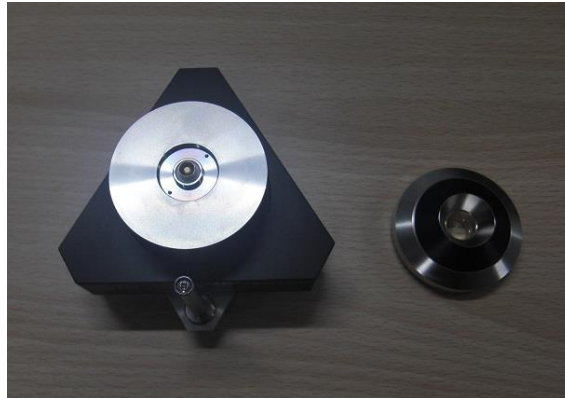


図 7

6. これまでの手順を逆に行い、片づける。

備考：マイクの取り付け

1. カプラー部分を反時計回りにまわして取り外す。



2. B&K4134 マイクロホンを、ネジ部分にまわし込み取り付ける。

あまり強く締めてはダメです。マイクロホンのカバーを間違って取らないように注意する。



3. 再びカプラー部を取り付ける。

